

日本地衣学会 ニュースレター

No.126

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	お知らせ	469
	会長挨拶 / 棚橋 孝雄	469
	会員通信	471
	「地衣類観察地案内」について / 安斉 唯夫・木下 薫	471

おしらせ *News and Announcements*

会長挨拶

Message from the President / by Tanahashi T.

>>>> 日本地衣学会会長 棚橋 孝雄：神戸薬科大学

この度、吉村庸先生、山本好和先生、高橋邦夫先生の後を継いで、日本地衣学会第7期（2014-2015）会長に就任致しました。就任に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。

日本の地衣類研究の中心にあつて、その発展に大きな功績を上げてこられた歴代の会長を引き継ぐことは、私には荷が重く、身の引き締まる思いです。微力では

ありますが、誠心誠意努めたいと思いますので、ご支援の程宜しくお願い致します。

私は元来、薬用植物の成分を中心とする天然物化学を専門分野としてきましたが、縁あって地衣類のもつ不思議な世界に魅せられ、地衣類を研究対象とするようになりました。2002年の日本地衣学会の設立時から参加し、日本地衣学会の発展の歴史とともに歩んできました。その間、歴代会長、役員の方々の努力により、日本地衣学会会則が整備され、それに基づき年次大会の開催、学術雑誌「Lichenology」の発行、ニュースレターとホームページの充実、地域活性化に向けた多

彩な活動や関連諸団体との連携など、学会の運営が順調に図られてきました。日本地衣学会の大会や学術雑誌「Lichenology」で発表される研究成果は、地衣類の分類学をはじめ、地衣類に特徴的な地衣成分を対象とした構造・生物活性に関する研究や地衣類の培養、地衣類の生理学や遺伝子レベルでの様々なアプローチなど幅広い分野にわたっています。研究活動を通じた人的な交流も日本国内にとどまらず、国際的な広がりを見せています。また、地衣学や日本地衣学会の活動



の基盤には、地衣類の分類学があり、地域活性化委員会が中心となって実施される地衣観察会や青空地衣教室、ワークショップは、日本の地衣フロアの多様性の解明と種の保全に極めて重要な意義があると言えます。このように日本地衣学会の活動は、大きな広がりを見せていますが、学会として継続的に活性化し、発展させていくためには、財政基盤の確立、安定的な学会運営、後継者の育成が必須であります。そのためには会

員数の増加と定着が必要であり、地域で地衣類の研究に取り組む研究者や学会運営を担う人材の育成が重要であります。前会長のこれまでの学会強化への取り組みを継承し、新役員の協力を得て日本地衣学会の更なる発展に向けて諸課題に取り組んで参りたいと思います。会員諸氏のご協力どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会員通信 *From Members*

「地衣類観察地案内」について

Guidance of "Lichen Observation Area — Fujimi-koen Park (Fujimi-cho, Nagano-ken)" / by Anzai T. & Kinoshita K.

>>>> 安斉 唯夫・木下 薫

「地衣類観察地案内」のご紹介

木下 薫

地衣の観察ポイントや地衣の写真などの資料があったら、その資料を持って地衣類を探し歩くことが出来たら便利なのではと思い、地衣類観察会を開催して下さる安斉さんに資料の作成をお願いした。そんな資料があれば初心者の方が一人で地衣類の観察をする一助になるのではと思ったのもお願いした理由の一つである。また、実際にはなかなか観察会にいけない私のような人にとっても、このような観察案内はまるで現地で地衣観察を体験したような気持ちにもさせてくれるものでもある。私は、地衣の形態観察については全くの素人なので、観察会に参加してもなかなか地衣を同定したりするのが難しい。この「地衣類観察地案内」は、どのようなところに気をつけて観察すると種を見分けることが出来るのかも解説されている。以下、安斉さんが作成された資料の一部をご紹介します。すべての写真を載せることが出来ないのが残念だが、興味の有る方は以下URLをご利用頂きたい。現在、富士見公園バージョンと鎌倉バージョンが公開されている。お楽しみください。

<https://www.data-box.jp/pdir/a20e3e77f85347a5acc3fad2d56cf3be> (富士見公園)

<https://www.data-box.jp/pdir/70b08a5e0f2a4ed7996ad5c216e9ab3d> (鎌倉)

「地衣類観察地案内」 富士見公園（長野県富士見町）

安斉 唯夫

片手に持って地類を探し歩くことが出来るような資料を試しに用意してみました。ご紹介する富士見公園は、これまでも観察会を開催している資料豊富な富士見公園です。JR中央本線富士見駅から入笠山に向かう途中、山麓のこじんまりとした丘の上に富士見公園があります。火の見櫓のある駐車場もありますが、正門の駐車場から入りましょう。駐車場の木々で出迎えてくれるキウメノキゴケに良い色だねと言ご挨拶して丘の上に向かいましょう。初めに芭蕉の句碑が目につきます(地図①)。台座には鮮やかな黄色で目を引くローソクゴケが観察できます。ローソクゴケは低地でも石垣などでよく見かけますが、近づいてよく見ると裂片があるので類似のローソクゴケモドキと見分けることが出来ます。階段を進むと石碑につくキッコウゴケ(地図②)やサクラの樹幹(地図③)にはトゲハクテンゴケなどが次々と現れ、なかなか先に進めません。階段を上りきることが出来たらリュックを下ろしてじっくり観察をはじめましょう。これから本番です。このあたりの桜の樹皮にはさまざまな地衣類が見られます(地図④)。この近辺にはヒメキウメノキゴケも確認されています。ヒメキウメ

ノキゴケは富士見公園で沢山見かける黄色みを帯びたキウメノキゴケにそっくりですが、裂片の縁に粉芽がついていてバスチュールはありませんのでルーペで見分けられます。ただ、ヒメキウメノキゴケは長野県の絶滅危惧種ですので、うっかり採集してしまわないよう気をつけましょう。富士見町は標高が高いので低地に多いウ

メノキゴケはめったにメにしません、ここにはウメノキゴケのミニチュア版ともいえるトゲウメノキゴケがありますので探してみましょう(地図⑤)。「黄ウメノキゴケ」や「ヒメ黄ウメノキゴケ」のように黄色系ではなく灰色系の葉状地衣です。観察しながら次第に奥に進んでいきます。ブランコの近くの桜の幹(地図⑥)には



国土地理院発行25000分の1
地形図(信濃富士見)を使用



ノルマンガケ、マユゴケが隠れています。どちらもとても小さい地衣類です。蘚苔類の隙間に1ミリもない小さな繭のような子器があればマユゴケでしょう。この周辺の桜の木では時々見つかります。見つけるコツは「ここにマユゴケがある」と信じて気長に探すことです。マユゴケに出会えなくても、綺麗な粉芽付きのノルマンガケが見つかるかもしれません。30分探して見つからなかったら、とりあえず先に進みましょうか。歌碑以外にもいろいろ石碑が建っています。平らな石碑の面に大きく広がったキクバゴケの仲間(地図⑦)が目立ちます。キクバゴケは成分で種が分かれてしまうのでキクバゴケ属、ということで納得しておきます。この近くの細い針葉樹にはピンゴケの仲間もみつっています。いつだったか吉村先生に「ピンゴケをみました」とお話ししたところ、「針葉樹に良く付くのですよ」と教えていただいたことを思い出します。さらに奥に進むと大きな楓が立ち並んでいます(地図⑧)。幹を覆い尽くすように広がっているのはタナカウメノキゴケです。このあたりは公園の中でもやや暗い環境に変わり、赤彦の歌碑付近ではアオキノリの仲間も観察できるようになります。入笠山ではどこにでも目に入るサルオガセの仲間もこの標高ではなかなか見つかりません。富士見公園で見つけたサルオガセの仲間は小さな地衣体でした(地図⑨) 富士見公園ではご紹介した地衣類以外にも多くの地衣類を観察することが出来ます。是非お出かけください。また、富士見公園で観察された地衣類はニュースレターNo.111(2011.12.15)にもリストがあります。

地衣類のリストを始め、この報告はこれまでに富士見公園で開催された青空地衣教室や、現地と一緒に地衣を探した小山内行雄讀良との体験をもとにまとめました。ご指導頂いた原田浩先生、吉村庸先生はじめ、参加者の皆さんに感謝いたします。



ノルマンガケ(上)とマユゴケ(下)

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 126, pp. 469-472: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 3 Dec. 2014.

日本地衣学会ニュースレター 126号

発行日：2014年 12月3日

編集：木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2014 日本地衣学会 (© 2014 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。